

原 著

肉用鶏に発生した消化管重複嚢胞の13例

阿部増美 茂木洋子 渡辺一雅 清宮幸男[†]

(一社)岩手県獣医師会食鳥検査センター (〒020-0851 盛岡市向中野5-28-27)

(2023年7月21日受付・2023年11月27日受理・2024年3月6日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77_e43/_article/-char/ja

要 約

消化管重複嚢胞に罹患した44～49日齢の肉用鶏13例を病理学的に検索した。長径28～70 mmの楕円球状嚢胞が7例の十二指腸上行部遠位、3例の腺胃並びに各1例の食道、空腸及び腸間膜に密着していた。各嚢胞は単房性及び非交通性であり、内腔に淡明粘液を満たしていた。組織学的に、全嚢胞壁は腸粘膜上皮に類似する内張り上皮、固有層、3層の平滑筋及び被膜により構成され、嚢胞と消化管はそれぞれ固有の平滑筋層を有していた。十二指腸に密着した嚢胞の内張り上皮が有意に背丈の高い絨毛状突起を形成していた。得られた成績から、鶏の消化管重複症では嚢胞の多くが固有の平滑筋層を有すること並びに十二指腸重複嚢胞は同上行部遠位への密着及び内張り上皮による背丈の高い絨毛状突起の形成により特徴付けられることが示唆された。

——キーワード：肉用鶏，十二指腸，消化管重複嚢胞，空腸，腸間膜。

-----日獣会誌 77, e43～e50 (2024)